

参考資料 3

ExTEND2005 に基づく基盤的研究、野生生物の生物学的知見研究の実施状況
(平成17年度～平成21年度)

1. 基盤的研究

代表研究者	課題名	年度	17	18	19	20	21
1. 個体レベルのアプローチ研究及び細胞・分子レベルのアプローチ研究							
(1) 化学物質の生体内における挙動に関する研究							
太田 茂	胎仔期、新生仔期の代謝機能と内分泌かく乱作用発現	FS	○	○	○	○	○
(2) 生殖系以外の標的臓器・機能への作用及び総体としての内分泌系機能への作用に関する研究							
鯉淵典之	核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構	FS	○	○	○	○	○
(3) DNAマイクロアレイの開発・利用に関する研究							
長濱嘉孝	メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究	○	○	○	○	○	○
(4) 受容体及びシグナル伝達系の同定に関する研究、受容体・転写因子等の動態に関する研究及び受容体を介さない生体制御メカニズムに関する研究							
中西 剛	胎児期におけるエストロジェンシグナルの gain of function とその性分化の可塑性	FS	○	○	○	○	○
鑪迫典久	無脊椎動物幼若ホルモン受容体の探索と作用機構の解明	—	FS	—	—	—	—
徳元俊伸	ステロイド膜受容体を標的とした化学物質の内分泌かく乱作用に関する研究	—	—	FS	FS	—	—
(5) 細胞・分子レベルでの影響評価に関する研究							
岩田久人	野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発	—	FS	FS	○	○	○
原 俊太郎	アラキドン酸代謝変動への影響からみた環境化学物質の内分泌かく乱作用機構の解析	—	FS	—	—	—	—

FS：フィージビリティースタディーとして実施、○：基盤的研究として実施

代表研究者	課題名	年度	17	18	19	20	21
(6) 新たな内分泌かく乱作用メカニズムに関する研究							
原 俊太郎	精子に存在するホスホリパーゼA2活性の阻害を介した環境化学物質の新たな内分泌かく乱作用機構に関する研究		—	—	FS	FS	—
大迫誠一郎	化学物質誘発性のエピジェネティック修飾によるDOHaDモデルの検証		—	—	—	FS	FS
2. 試験法開発に資する基盤的研究							
(1) 試験動物の基礎的データの整備及びインビトロ試験結果とインビボ試験結果との関連性に関する研究							
青山博昭	哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解析		○	○	○	○	○
早川和一	燃焼排ガスに含まれる多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の評価		FS	○	○	—	—
勝 義直	魚類精巣卵の誘起機構解析		○	日英に移管し実施中			
柏木昭彦	両生類の甲状腺ホルモンに対するかく乱作用発現のメカニズムに関する研究		○	試験法開発に移管し実施中			
(2) 試験法の開発・検証に関する研究							
木下政人	遺伝子導入メダカを用いた内分泌かく乱物質による生殖巣初期変化の把握と回復能力の検討		FS	○	○	—	—
蔵崎正明	内分泌かく乱物質の生態影響試験法の開発		FS	—	—	—	—
長江真樹	イトヨによる化学物質の内分泌かく乱作用の評価手法の研究		○	日英に移管し実施中			
中井 誠	メダカアンドロジェン受容体結合性試験の確立		FS	—	—	—	—

FS：フィージビリティースタディーとして実施、○：基盤的研究として実施

代表研究者	課題名	年度	17	18	19	20	21
(3) 試験対象物質の選定手法に関する研究							
有菌幸司	<u>メダカの再生産に及ぼす化学物質およびその代謝物の影響とトキシコゲノミクスによる作用機序の解明</u>		—	—	—	FS	FS
安住 薫	<u>海産無脊椎動物ホヤを用いたトキシコジェノミクスの基盤研究</u>		—	—	—	FS	FS
早川和一	<u>多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の構造活性相関に基づく魚鱗の化学物質スクリーニング法に関する研究</u>		—	—	—	FS	FS
徳元俊伸	<u>構造活性相関に基づくステロイド膜受容体作用物質群の同定</u>		—	—	—	—	FS
古賀 実	<u>無脊椎動物(アミ類)における生殖・発生異常とその発生メカニズム</u>		—	—	—	—	FS

FS : フィージビリティースタディーとして実施、○ : 基盤的研究として実施

2. 野生生物の生物学的知見研究

代表研究者	課題名	年度	17	18	19	20	21
1. 無脊椎動物類における変化を対象とした研究							
上田哲行	アカトンボ減少傾向の把握とその原因究明		—	FS	FS	○	○
三枝誠行	底生甲殻類の成長や成熟に見られる異常のスクリーニングと環境の影響評価に関する研究		—	—	—	—	FS
田中嘉成	改良型ミジンコ繁殖毒性試験を用いた新たな数理生態学的解析手法の検討		—	—	—	—	FS
2. 魚類における変化を対象とした研究							
須之部友基	雌雄同体性魚類の性の可塑性と社会構造に関する研究		○	○	—	—	—
濱口 哲	野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析		FS	○	○	○	○
堀口敏宏	東京湾における生態系かく乱の実態解明とその要因解析		—	FS	FS	○	—
3. 両生類における変化を対象とした研究							
高瀬 稔	両生類の野外及び室内飼育における精巣卵の消長		—	—	FS	FS	—
4. 鳥類における変化を対象とした研究							
由井正敏	魚食性猛禽類「ミサゴ」の生態とその食物連鎖に関する基礎的研究		—	—	—	FS	FS
5. ミクロ生態系における変化を対象とした研究							
花里孝幸	沿岸域を中心とした湖沼生態系かく乱の実態とそのメカニズムの解明		○	○	○	—	—
山室真澄	農薬がシャジクモ類減少の一因である可能性に関するフィージビリティースタディー		—	FS	—	—	—
白岩善博	シャジクモ類の衰退要因解明に向けた環境負荷化学物質の影響に関する生理・生態学的研究		—	—	FS	FS	○
6. 野生生物体内の化学物質蓄積量の把握							
門上希和夫	魚介類におけるダイオキシン類蓄積量の比較		○	—	—	—	—

FS：フィージビリティースタディーとして実施、○：野生生物の生物学的知見研究として実施